

五位組第12期連研の開催に向けて

教願寺 住職 岡西好持

2024年
（令和6年）
10月5日

五位組だより

念仏のこころに生きる生活を

浄土真宗本願寺派
高岡教区 五位組

題字・織田隆夫

現在、五位組第12期連研の開催に向けて、準備を進めております。

そもそもこの連研とはどういったものなのでしょうか。

戦後、今までの価値観が崩れ、家族の戦死や食糧難の苦しみの中でよりどころを求めて空前のお寺参りブームが到来いたしました。門信徒以外にも多くの人間が法座に聴聞に訪れるようになり、どのお寺の法座も連日満堂であったと伝えられています。しかし、結局はそれらの人々はほとんど定着しませんでした。

また、時を同じくして社会の急激な変化の中で、「形ばかりの僧侶、名ばかりの門徒」と言われるように教団内でも急激な空洞化が進行しつつありました。

このままでは宗門は衰退していく

一方であるという危機感から「本来の浄土真宗の教団を取り戻そう」として、様々な分析や取り組みが始まりましたが、その過程で明らかになったのは、僧侶・門信徒ともに、教えと現実の問題が切り離され形骸化し、社会の中で起こる様々な問題や苦悩に応えられない、という実態でした。

そのことの反省から「本当の意味で浄土真宗の教えに生きる人たちを育てよう、それ以外に教団の未来はない」として始まった取り組みの一つが「連研」でした。様々な試行錯誤の末、年に一度や二度の単発の研修会、それも講師による講義形式だけでは真宗の本来化や人材の養成は上手く進まなかったことから、少人数による話し合い法座を導入した連続的な研修会という結論に至りました。

元々話し合い法座は、真宗では似たようなことがお講や囲炉裏端を囲んでの話し合いとして伝統的に行われており、それが門信徒の間でも深い教義理解や豊かな宗教的感性を養うのに役立っていました。

皮肉なことに真宗教団ではその習慣は薄れ、当時勢いのあった新興宗教が本来は真宗の伝統であったこの話し合い法座を導入し、成功を修めていたことから、

連研でも導入されることとなりました。

この連研とは浄土真宗の教えが現代社会に生きる私たちにとってどのようなヒントやメッセージを与えているのかを、ともに学び、話し合うことにより、祖先伝来の浄土真宗の素晴らしさと魅力に出会い、これまでにない視点や生き方を恵まれていく機会と見えましよう。

五位組連研では、基本的な仏教知識や作法なども学べる内容としていく予定ですので、「今まで浄土真宗の話はあまり聞いたことがないのでわからない」「基本的なことでも知らないのでは人に聞けない」という方にこそ受講していただきたいと願っております。これから始まる報恩講シーズンに皆様にご案内をお届けできるよう準備を進めております。

皆様の受講を心よりお待ちしております。



自坊紹介

林照山 浄明寺 高岡市四日市



当寺の前身は真言宗であり、二上の地にあつたと伝えられています。しかし、蓮如上人の北越下向に際し、浄土真宗に改宗。

山号を林照山と号したという記録がありますが、寺号の由来は不明です。現在地での開基は、永正五年（一五〇八年）三月と伝わっています。

江戸時代の安永年間（一七七二〜一七八〇年）の類焼に

より伝承の文書類を焼失したため沿革等不詳ですが、本願寺の直末寺院となる以前は、能登七尾の光徳寺、次に射水郡高岡町の光慶寺の末寺であつたのが、それぞれ離脱したと記録にあります。

歴代住職についての記録は、十五世以前は分からない状態です。

二十二世英治住職は既に亡く、坊守が護持運営に当たっております。五位組寺院の方々や門信徒の皆様のおかげで支えを得て、何とか寺門を受け継ぎ念仏相続をさせて頂いております。

坊守と致しましては、法座の開設もままならぬ中ではありますが、四方山話のできる集会の場として寺に集まって頂き、ご法義との縁つなぎの場としての役目を果たせたらと願うばかりです。

仏教語アラカルト

教願寺 前住職 岡西法英

その⑦

無常の風と四苦八苦

いのちあるものは、例外なく、生まれたもの、老いてゆくもの、病むもの、そしてついには死ぬものである。これを生・老・病・死と呼び、四苦とも呼びます。ここで言う苦とは、苦しいということではなく、我が意のままにならない我が身の姿ということです。

これに、愛するものと別れる愛別離苦、憎いものと会う怨憎会苦、求めて得られない求不得苦、生きることの全体がまならぬという五蘊盛苦を合わせて、四苦八苦と呼ぶのです。

全ての形あるものは、やがて古くなって傷み、壊れて、つい

には消え去るものである。虫眼鏡でしか見えない小さな微生物から、果てしないこの大宇宙にいたるまで、すべての存在するものは例外なく無常なる存在であると説くのが仏教の出発点です。

その無常の理は、目には見えないけれども全てのものを揺らす風に譬えられるのです。それは、あたかも限りあるいのちを生きるものたちを、いつくしみの眼差しで、じっと見つめていて下さる如来のお心を尋ねよと教えているようであります。



報 恩 講 ご 案 内

各寺院の日程順に記載してあります。

石堤 法善寺

十月八日 朝 九時三十分 昼 一時三十分
法話 戸出六十歩 林 要昭 師

赤丸 性宗寺

十月十一日 昼 一時三十分
法話 射水市市井 公文名 眞 師

四日市 浄明寺

十月十四日 朝 九時三十分
十月十五日 朝 九時三十分
法話 射水市市井 公文名 眞 師
※ 十四日は永代祠堂経法要

辻 西福寺

十月十六日 朝 九時三十分
法話 高岡市伏木 山名 一徳 師

中保 善教寺

十月十六日 昼 一時三十分
法話 高岡市佐加野 磯原 孝雄 師

立野 永念寺

十月十九日 昼 一時三十分
法話 未定

三日市 光源寺

十月二十二日 朝 九時三十分 昼 一時三十分
法話 高岡市佐加野 磯原 孝雄 師

佐加野 光明寺

十月二十七日 昼 一時三十分 夜 七時
十月二十八日 朝 九時三十分
法話 高岡市内島 岡西 法英 師

内島 教願寺

十月三十日 昼 一時三十分
十月三十一日 朝 九時三十分
法話 高岡市佐加野 磯原 孝雄 師

石堤 長光寺

十一月一日 朝 九時三十分 昼 一時三十分
十一月二日 朝 九時三十分 昼 一時三十分
法話 氷見市布施 圓山 望 師

笹川 廣濟寺

十一月五日 朝 九時三十分 昼 一時三十分
十一月六日 朝 九時三十分
法話 高岡市伏木 山名 一徳 師

麻生谷 西光寺

十一月七日 朝 九時三十分 昼 一時三十分
十一月八日 朝 九時三十分 昼 一時三十分
法話 氷見市脇 寺西 良夫 師

上向田 浄永寺

十一月十二日 朝 九時三十分 昼 一時三十分
法話 高岡市佐加野 磯原 孝雄 師

山岸 珉照寺

十一月十六日 昼 一時三十分
十一月十七日 朝 九時三十分
法話 高岡市伏木 山名 一徳 師

舞谷 永賢寺

十一月二十二日 朝 九時三十分
法話 高岡市内島 岡西 好持 師

本保 本正寺

休止

詳細は各寺院にお問い合わせください。

五位組夏休み子ども大会 笹川 廣濟寺 福田慶隆

八月七日午後二時より、笹川の廣濟寺にて第23回五位組夏休み子ども大会が開催されました。五位組16ヶ寺および門徒総代会共催による夏のイベントに、今年も50名の子ども達が集まってくれました。

まず皆で仏さまにお参りした後は、昨年大好評だったコンプレッサーさんによるマジックショー。ビックリするマジックはもちろんのこと、楽しいトークも加わって、子ども達は大盛り上がり。参加型のマジックもあり、大変楽しい時間でした。

続いて、今回の目玉であるピザ作り。トッピングする具材を射的などのゲームをしながら集めていきます。集めた具材を友達と分け合い交換もしながら、各々でオリジナルピザを作りました。実際にピザ窯を使って一枚ずつ焼くので、子ども達は焼いている最中も興味津々。大火力で焼き上がってくるオリジナルピザ

を満面の笑顔で食べてくれました。

この子ども大会は、子ども達に仏さまやお寺に親しんでもらうことを目的としています。が、何よりも子ども達にとって元氣いっぱい楽しい夏の思い出になることを願っています。子ども達の成長にお寺も少しでも手助けできるようお願いしながら歩んでいきたいと思えます。



五位組災害支援活動報告

- ・輪島市門前町諸岡地区にて炊き出し活動(計8回)
- ・輪島市門前町・七尾市能登島・水見市へ支援物資の供給
- ・輪島市門前町浦上地区にて災害廃棄物の運び出しや土砂の除去

災害支援活動における支援金協力をお願いしております。お問い合わせは、五位組各寺院まで(募金箱あります)。



編集後記

今年の夏も猛暑が続き熱中症に注意をしながらの日々でした。そんな中暑さもなんのその、子ども大会が開催されお世話をさせていただきました。多くの子供たちが集まりマジックショーやゲームをし、自分だけのオリジナルピザを作り美味しく食べて楽しんで元氣な子供たちに接することができました。

また、今年のパリオリンピック・パラリンピックでは、年甲斐もなく夜中に夢中で観戦していました。金メダルをとれた姿や惜しかった姿には感動しました。しかし、この組報の編集中に奥能登豪雨による大変な被害があり心を痛めています。

合掌